

目をこらして (12)



「そうかって分かったことがあったんです」 Kちゃんのお母さんが話し始めた。

「帰り道に、Kが、落ちていた葉っぱを拾ってぐしゃぐしゃやって、ほらお母さんいい匂いだよ嗅いでごらん！ って言ったんです。変なことするなあ、って思っていたんですよ。それがこの間『あんず』（時々発行している学級通信）を読んで、そうだったんだって分かったんですよ。」

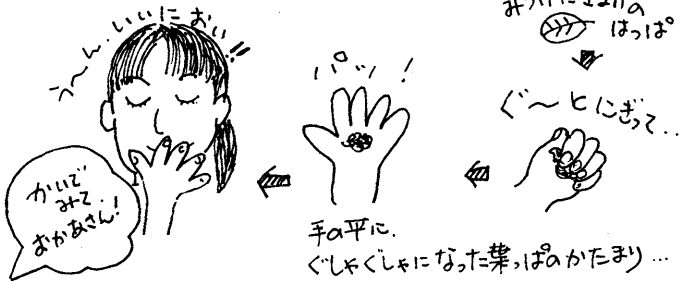
*

私の幼稚園の近くに都立林試の森公園がある。そこは、かつて林業試験場だっただけに数々の樹が生い茂り豊かな自然に包まれることができ、私たちは、第二園庭のような気さくさでよく出かけて遊んでいる。時にはゲストを招き一緒に出かけることもある。ゲストの一人のプロナチュラリストと森を探検していた時のことだ。

楠の木の下で、彼は言った。「この葉っぱをこうやってぐしゃぐしゃやって、嗅いでごらん！」

子どもたちは、不思議そうな顔で葉っぱをもんでいた。

それを鼻の近くに持っていくと……、





耳をすまして

「あ、匂いがする！」という響きの声が続々とあがった。楠の葉は、スーッとした匂いがした。

次に、ノビル（野草）の生えている所で、「これも嗅いでごらん」と言われ嗅いでみる。「これ、みそ汁で飲んだことある」そう、それは完全にネギの匂いだった。

こうして鮮やかな匂い体験をした子どもたちは、いろいろな葉の匂いを嗅ぐようになった。楠のほどの鮮やかな匂いではなくても、どの葉もかすかな匂いがする。そのかすかな匂いを楽しむ子どもたちだった。

*

分かったこと、面白かったこと、興味をもったこと、それを何回でもやってみるのが子ども。

Kちゃんは、自分が嗅いだあの匂いをお母さんにもかかせたいと思ったのだろう。子どもの行動の意味を一緒に分かって、一緒に楽しんでいたら、本当にいいな、とKちゃんのお母さんと話していて思った。

今回は、「鼻をすます」のお話でした。

絵と文 宮里暁美（目黒区立ふどう幼稚園）



のびるの葉

極細ねぎと
いうかんじ。
いわゆる草です。
でも、そのにおいは、
完全に、ねぎ!!
食べられます。

くねきの葉

スーッとした
におい。
木についている緑の葉
でも、下に落ちた茶色
の葉とも、同様に、
いいにおいがする。